

令和7年10月10日

令和7年度病害虫発生予察特殊報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：スイカ退緑えそ病
2. 病原ウイルス：ウリ類退緑黄化ウイルス（Cucurbit chlorotic yellows virus ; CCYV）
3. 作物名：スイカ
4. 発生地域：御坊市、日高郡印南町
5. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和7年7月に、御坊市および日高郡印南町の施設および露地栽培スイカにおいて、葉脈間や葉縁部に黄化症状やえそ症状を呈する株が発生した（図1および2）。当所におけるRT-PCR法による遺伝子診断の結果、本県では未発生のCCYVによるスイカ退緑えそ病であることが確認された。

本病は、平成21年に熊本県および高知県、令和6年に千葉県において発生が確認されている。また、本県では、同ウイルスによる病害として、平成26年にキュウリ退緑黄化病、平成30年にメロン退緑黄化病の発生が確認されている。

6. 病徴

はじめ葉に不明瞭な退緑斑紋を生じる。斑紋は拡大しながら黄化し、症状が進展すると葉脈部分を残して葉の全面が黄化する。黄化葉の周縁部や葉脈間にえそ症状を生じ、葉が枯死することもある。

7. 病原ウイルスの性質および伝染

本ウイルスはクリニウイルス属に属し、タバココナジラミ（バイオタイプ Q および B）により半永続伝搬（ウイルス媒介能力は数時間から数日間持続）される。経卵伝染、汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしないと報告されている。接木で伝染するため台木の感染に注意する。自然感染が確認されている作物はメロン、キュウリおよびスイカである。なお、接種試験では、ウリ科、ナス科、ヒユ科など広範な植物に感染することが確認されている。

8. 防除対策

媒介虫であるタバココナジラミの防除対策を徹底するとともに伝染源の除去に努める。

＜露地栽培・施設栽培共通＞

- 1) 育苗期の薬剤防除および定植前の灌注剤処理や定植時の粒剤処理により、タバココナジラミを防除し、生育初期の感染防止に努める。
- 2) 発病株は伝染源となるため、見つけ次第直ちに抜き取り、ビニル袋などに入れて完全に枯死させてから処分する。

3) タバココナジラミは寄主範囲が極めて広く、雑草にも生息するため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

＜施設栽培＞

- 1) 施設開口部への防虫ネット（目合い0.4mm以下）の展張、近紫外線除去フィルムの利用などにより成虫の侵入防止に努める。
- 2) 栽培終了後にすべての株を抜根した上で、7～10日間以上施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外へのタバココナジラミの分散を防止する。



図1 葉脈間の黄化とえそ症状



図2 激しい黄化症状